
革命カプリッチョ

小宮山蘭子

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

革命カプリッチョ

【Nコード】

N4238H

【作者名】

小宮山蘭子

【あらすじ】

悲劇のフランス王妃・マリー・アントワネット。斬首直前の最期の独白……を、コメディタッチで（え？）

いやもう、ホンマにかんべんしたって。
ギロチンで何それ、おいしいの？

って、言ってる場合かっ

そらな……あたしもそのう……ちょっと無駄遣いしすぎました。

それは、認めます、はい。

ここであたしが「なんも遣うてません」言つたかて、ドン引きやる
うしな。

ここは、あたしも折れようやないか。

ちよつとハメはずしすぎました。どうもすみませんでした。

だからて、ギロチンでなに？ 首斬るの？

うそーん。痛いやんっ

一瞬で終わる？

って、そんな、子供の注射みたいな言い方されたかて、

あたし、納得いきませんよ。

そもそも、なんやねん。

裁判とか牢獄とか引きずり回れて、それでのうてもクタクタやねん。

そのうえ、処刑って。

そのうえ、処刑って。

大切なことだから、二回言いました。

腹立つわ、ホンマに。

あーベルサイユに帰りたいわー

懐かしいわー

あの頃はよかつたわ。

別にな、あたしかてな、なりとつて王妃になつたわけやないねん。
おかあちゃんに、「なんも言わず、とにかく行け！」言われて、
しぶしぶフランスくんたりまで嫁いできたんやで。

13の時や。まだ中2やがな。

そらもう、脳内、妄想バリバリやったわ。

小さい時分からかわいいかわいいわれて、

自分でも「あたし、なかなかイケてるやん？」て思つてきたからな。
どんなイケメンの王子さまと結婚したろうかて、ときどきわくわく
してたんやで。

それがなんとあんた、チビで小太りで、錠前作りが趣味のフランス
皇太子。

ちよつとおおお、勘弁したつてー

騙しうちやないか。

あんまりや。大人はずるい。汚い。

「なんであたしが、こないなヤツと」

つて、しばらくはふてくされてましたがな。

あたしはデブ専じゃないし、誰が好き好んでこんなイケてない男と
メイクラブなんか。

メイクラブつてオブラートに包んでも、結局、せなあかんかったか
らな。

あーあ、今さら感バリバリやけどな。まったく、ため息でるわ。

一生バージン言うのも、切ないしな。王妃やしな。

子供までできてもうたしな。

まあ、子供はあたしに似て、可愛かったけど。

しかしな、あんたも王様やら王妃様やらに、いっぺんなつてみると
ええわ。

ぎょうさん召使がおつて、美味しいもの食べて、高いものばかり
身につけて、

毎晩毎晩、パーティーやでー

ここだけの話やけどな、ぶつちやけ、イケメンとも遊び放題やで。中でもフェルセンが一番のお気にやったけど、

最後まであたしら家族を逃がしてくれようと一生懸命になって助けてくれたなあ。

人は、いざつとときに、その人の器が見えるもんやな。

あの子は、心根の綺麗な、めつちやええ子やったわ。

まあそんな感じでな、楽しゅうて楽しゅうて、年取るのも忘れただわ。国のこととか民衆のこととか、二の次やで、実際。

そら誰でも、まともな大人にはならへんで。

権力の魔性いうやつちや。

……あ、なんか、ちよつと難しい言葉使つてもうた。

まあ、やればできる子やで、あたし。

だから、あたしも、「そんなもんかなー」って感じで、言われるま
まに

王妃稼業やつてきただけやがな。

そもそも、国が傾くほど無駄遣いしたわけではないで。

首飾り事件かて、まるまる濡れ衣や。なんべんも言うてるやろ。

それをやいのやいの言われて、吊るし上げられて、全部あたしが悪いんかい？

あたしは生贄みたいなもんや。

贅沢三昧してたあたしをずっと妬んでたやつらが、あたしら家族をおとしめることで

「あーせいせいしたわ。これで幸せになれるわー」って、ちっばけな夢みてるだけや。

もう、好きなようにすればええがな。

あたしは牢獄で、「体弱いねん」みたいな感じてクネクネしてたけどな、

それで助かるなら思うて、小芝居してただけや。

嘘よねーん。

もう開き直ったわ。

ギロチンでもなんでも、やったらええねん。

こんな人生、さっさとおさらばして、生まれ変わってまた違う人生歩いてやるねん。

でももう、王妃は嫌やな。

普通の、中流家庭の子供でええわ。今度こそ、イケメンと結婚するんや。

フェルセンみたいな、性格のいいイケメンやったら、申し分ないわ。お金もいらんわ。もう遣いあきたしな。

迎えが来た？

髪もばつさり切ってもろうて、スッキリしましたわ。

おおきに、カリスマ美容師……

って、皮肉やで？ あんた、どんだけ適当な切り方やねん。

もうちよつとどうにかならんかったんかいな。

泣けてくるわ。

はいはい、行けばええんやろ、行けば。

って、なにこれ？

馬車じゃないやーん。

相手は馬車で処刑場に行ったて聞いてたから、あたしも馬車かと思うてたのに！

肥桶を運ぶ荷車？

うんこか。

あたしやうんこと同じか。

最後まできつついな、自分ら。

人をへこますことにかけては、天下無敵やな。

やりすぎやねん。

さむいわ。

うわ、ぎよーさん人おるわー
なんや、みんなヒマ人やな。

あ、そうか。いじめっ子が、君ら。

それとも、ハパラツチ？

撮影は禁止ですよー 投稿とかせんどつてよ。

貧乏人ども、こんなところくるヒマあったら、働けちゅーねん。

あ、はいはい、この階段のぼるんやね。

あれで首ちよん斬られるんかー

ギラギラしとるやないけ。

あれが落ちてくるんかー しゃれにならんわー

でも、一瞬だけやる、痛いの？

斬りそこなったら、恨みますでー マジやで。

おっと、足ふんだ。

「ごめんなさいね、わざとではありませんのよ。でも靴が汚れなくてよかった」

……つて、これも皮肉やで、執行人のにいちゃん。

これが、あたしの最期の言葉でした。

ちゃんちゃん。

ほな、さいなら。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4238h/>

革命カプリッチョ

2011年9月9日11時31分発行